

# χάρις

## カリス

### 知っておきたいキリスト教のことば (33)

## 恩恵 おんけい

「恩恵」という言葉は、ギリシア語の「カリス」の訳語の一つです。「カリス」は「恵み」とも訳され、新共同訳聖書ではそちらを採用しています。

わたしたちが一般的に使っている「恵み」とは、広辞苑にあるように「めぐむこと。なさをかけること。あわれみ。いつくしみ」です。人間同士でも用いられる語です。しかし、聖書での「恵み」は、神さまの側から人間に対して一方的に与えられるものを指しています。そして聖書でいう恵みは、人間の努力や生き方に関係なく、与えられるものなのです。

わたしたち人間は、神さまから離れ、神さまに背いて生きています。悪いことを何一つ考えずに一日を過ごすことができたなら、どんなに幸せだろうかと思うことがあります。しかし、毎日寝る前に思い返すと、今日も自分はどうして、と思う日々が続くのです。

そのような罪深いわたしたち人間に、神さまは独り子イエス様と与えられました。そしてわたしたち一人ひとりを滅びから救いへと、死から生へと贖うために、イエス様は十字架へと向かわれたのです。

それはわたしたち一人ひとりが神さまの前に正しい人間だからでも、立派な行いをしたからその報いとしてというわけでもありません。わたしたちが罪にまみれているにもかかわらず、神さまから与えられた一方的で見返りを何も求めない恵みこそが、恩恵なのです。

恩恵を受けたわたしたちは、どのように生きるべきでしょうか。日々の恵みに気づいたときに、神さまがわたしたちに近づいてくださったことを感じ、感謝の内に生きていけたらと思います。

今回は「回心」です。お楽しみに。



「羊飼いの礼拝」

レンブラント・ファン・レイン (1606~1669年)

事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

(エフェソの信徒への手紙 2章 8節)

